

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校番号

62

福岡県立三井高等学校長 印

学校運営計画			評 価			
学校運営方針	○ 人権尊重の精神を基底とし、道徳性、自主性、創造性に富む豊かな人間性を育むとともに、社会の変化に主体的に対応できる能力を培い、平和的・民主的な社会の一員として貢献できる人間を育成する。このため、教職員自らが率先垂範に努めるとともに、人間性を高め、校訓「自律 礼節 剛健」のもと、「己にうち克ち、師友ともに尊敬し合い、身も心も健やかな若人であれ」を具現化する教育を実践し、「地域を支える有為な人材の育成」を通して、保護者・地域から信頼され支援される学校づくりに努める。		A			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
○ 各部、学年等が連携し、授業規律・早朝課外・研究授業等の総合的な計画による授業改善と学力向上に努め、全教職員の共通理解によるキャリア教育の充実を努める。	(1) 基礎・基本の定着と授業規律の徹底を図り、学力を向上させるとともに、希望進路実現のためキャリア教育の充実と自己の将来を真剣に考える態度を養う。	○ 習熟度・少人数指導等の細やかな指導により学力向上を図り、授業規律を通して学習に集中する態度と自学自習ができる力を養う。 ○ 「わかる・できる」喜びを経験させるため、アクティブ・ラーニングの活用など授業研究を通して授業改善・指導力の向上を図る。 ○ 進路意識の高揚を図る取組を進め、進学率、早期就職内定率の向上を図る。				
○ 「生徒指導は進路指導」の共通認識を持ち、遅刻・欠席をなくし、身だしなみ指導など基本的な生活習慣やマナーを確立させ、有為な社会人となるための準備と自覚を育てる。	(2) 積極的な生徒指導を推進し、生徒の自信や自尊感情を高めるとともに、基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、目標に向かって生き生きと活動できる学校づくりに努める。	○ 時間厳守や身だしなみ等基本的な生活習慣やマナーを確立させ、社会人として求められる資質や規範意識を育成する。 ○ 生徒会等自主的活動の活性化を図り、道徳心の育成など心の教育を充実する。 ○ 行事や体験活動等を通じて鍛えて褒めることにより、「やればできる」という達成感や自覚と自信を育てる。 ○ 保健安全指導を充実するとともに環境美化意識の高揚を図る。				
○ 生徒の生活実態等の的確な把握に努め、SC、SSW、訪問相談員及び関係機関との積極的な連携による修学支援の充実を図る。	(3) 生徒の生活背景の共有を基盤に、修学支援の充実による安心して学ぶことができる学校づくりを進める。	○ ケース会議と学年が連携し、生徒の修学状況の改善に努める。 ○ 家庭訪問等の充実により生活実態の把握と保護者との信頼関係を深め、確かな生徒理解に努める。				
○ 学校ホームページの更新・充実及びパンフレットの刷新に努めるとともに、中学生を対象にした進路相談会の充実・改善に努め、積極的に効果的な広報活動を展開する。	(4) PTA・同窓会・地域関係機関等との連携強化を進め、地域に開かれた信頼される学校づくりの推進を図る。	○ 地域・保護者や学警連等と連携を深め、生徒を見守るネットワークづくりに努める。 ○ 「チーム三井高」として「面倒見がいい学校」を目指しながら、「夢の実現に向けてチャレンジ」できる学校づくりを行う。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度の主な課題	
教科指導	基礎・基本の定着と確かな学力の育成	1年生朝課外や考查前学習会を通し、基礎学力の定着を図る。 生徒の実態を把握するために学力診断テストを活用し、進路・学年と連携し、個々の学力を伸長する。 机の整列・チャイム席、挨拶等の授業環境・授業規律を徹底させるために、全職員で確認し指導を行う。	A	A	・新学習指導要領を受け、教育課程・教務規定の見直しを行い、年間を通してカリキュラム検討委員会を行う。 ・授業アンケートや学力診断テストを活用し、教師の授業力や生徒の学力向上を目指す。 ・授業規律を生徒・教師で確認し、集中して学習できる授業環境づくりを行う。 ・ICT機器やアクティブラーニングを取り入れた授業を実践できるように研修部と連携して教科を超えた授業研究を行う。	
	中途退学者の防止	遅刻・欠席の多い生徒について、遅刻届や欠課時数報告用紙を利用し、個別の対応を充実させる。 個人面談週間の時間確保とともに、家庭訪問を効果的に実施する。	B			
	教科指導力を高め、「わかる・できる」授業作り	授業アンケートを活用し、生徒の授業の受け方や教師の授業の改善を行う。 ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れた授業を各教科で行う。	A			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立とマナー指導等の徹底	学校生活を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。 その場での指導を徹底し、高校生として正しい身だしなみや振舞い方を身に付けさせる。 いじめを許さない態度・行動の育成を推進する。	B	A	基本的な生活習慣や身だしなみ、振舞い方に課題を有する生徒が多いため、全職員が共通認識を持ち、学校生活のあらゆる場面で、積極的かつ組織的な生徒指導を行い、この課題を克服していきたい。特に、その場での指導を徹底させ、社会人として求められている資質・能力や規範意識の育成を目指す。さらに、部活動及び生徒会活動を充実させ、学校での充実感をより多くの生徒に持たせたい。	
	地域連携と防災・危機管理	市や関係機関と連携をし、生徒の安全指導、ボランティア活動を推進する。 全職員の危機管理に対する意識の高揚を図り、緊急時に対する備えを十分に行う。	A			
	部活動及び生徒会活動の活性化	文武両道を基本とし、社会に貢献できる人材の育成を目指す。 部活動及び生徒会活動を充実させ、多くの生徒に明確な目標や学校での充実感を持たせる。	A			
進路指導	3年間を見据えた進路指導とキャリア教育の充実	1年生キャリアワークショップ、2年生インターシップ、3年生進路ガイダンス等の充実を図る。 1、2年生の早朝課外、3年生の進路別課外を実施し、学力向上及び希望進路の実現を図る。 全学年で実施する学力診断テストの分析結果を活用して授業改善を図る。	A	A	各進路指導行事について学年との連携を密に図り、事前・事後指導を充実させる。学年と連携し課外への出席率を上げる取組を行う。3年生については、より進路希望に応じた性格検査や作文・小論文テストを導入する。	
	関係機関・団体と連携した学校教育力の向上	大学・短大や専門学校、ハローワーク等と連携し、生徒の希望進路に応じた指導を行う。 保護者や専門学校と連携し、3年生全員を対象とした模擬面接を行う。	A			
	教職員の資質能力向上のための研修の充実	教育課題や将来を展望した内容による職員研修を充実させ、研修内容を研究紀要「楷樹」にて報告する。 授業アンケートを実施し、授業改善に役立て、授業力向上に向け公開授業を推進する。	A			
研修・図書・情報・広報	図書教育の推進	図書委員会を活性化し、読書活動の充実を図る。	A	A	授業アンケートを継続して実施し、教務部と連携して授業改善に向けた取り組みを行う。職員研修をさらに充実・発展させる。図書教育の推進については、図書館使用をさらに推進し、図書活動の充実を目指す必要がある。また、生徒による中学校訪問を今後も実施し、学校の特色や魅力を十分に地域へ発信するとともに魅力あるHP作成と管理体制を十分に構築し、学校行事や部活動の活躍などを随時発信する。	
	情報機器等を有効活用した校務の効率化の推進	校内情報ネットワークの構築、運用を図る。 情報セキュリティの構築を図る。	B			
	学校の特色を発信する広報活動の充実・強化	中学校訪問を積極的に実施し、学校の状況や特色を紹介する広報活動を充実強化する。 学校の特色を発信するHPの作成と管理体制を構築し積極的な更新を行う。	A			
保健環境	心身の健康管理の充実	健康調査を実施し、全職員と情報を共有し、生徒の学校生活に有効活用する。 性と心の健康相談を実施し、効果的な個人相談や講話を実施する。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員と十分な連携をとり、教育相談活動を充実させる。	A	B	心身の健康管理については、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーとさらに連携を取り、課題のある生徒への適切な対応を目指す。 美化活動については、日々の清掃活動がまだ不十分であるので、月末大掃除及びクリーンアップ週間を充実させ、生徒の美化意識をさらに高めていきたい。	
	校内外の美化活動の充実	校外のゴミや空き缶拾いなど、各学年や部活動生による地域清掃活動を充実させる。 美化委員会を中心に、日々の清掃活動を充実させる。 月末大掃除及び三井高クリーンアップ週間を充実させ、生徒の美化意識を高める。	B			
	PTA活動の充実	PTA関係行事の目的の明確化と周知、そのことを通じて参加者の増加を図る。 地区懇談会等を通じた保護者と教職員の連携を図る。 各種PTA委員会の定期的開催と活性化を図る。	B			
企画庶務	地域と連携した学校行事の活性化	三井高発表会を普通科一般も含めた、学校全体の発表会として位置づけ、さらなる充実を図る。 文化発表週間を地域の文化的行事と絡めることで、地域との連携を図るようにする。 学校行事の成果を積極的に広報し、生徒のセルフイメージの向上を図る。	A	A	保護者の生活状況の厳しさゆえか、PTA行事への保護者の参加は残念ながら昨年度並みとなった。北部九州豪雨のために地区懇談会は1地区のみでの実施となった。三井高発表会は普通科一般の生徒の発表の場面も増え、地域に向けての学校全体のアピールとなった。	
	人権・同和教育	人権・同和教育の視点の確立と人権感覚の育成	人権・同和教育推進委員会の定期的実施と情報交換・共有・指導支援方法等の確認徹底 中・高連絡会の実施、各地区における連絡会や地域で開催される諸行事への参加 教職員の部落差別認識を深めるための校内研修、校外研修への積極的参加を通して人権感覚の向上を図る。			A
		様々な場面での人権・同和教育の推進	生徒の実態把握・理解・課題等を検討し、3年間を見通した年間計画を基に人権・同和教育学習を実施する。 生徒理解のため、担任・副任・学年・各教科等との密な連携を行い情報共有・生徒指導支援を検討する。 人権委員会（専門委員会）の自主的・積極的活動の推進を図る。			B
事務部	教育環境整備の充実	教育施設の安全点検・改善について更なる徹底を図る。 各分掌と情報の共有化を図り、予算執行の教育効果を高める。	A	A	・老朽化施設（屋上防水等）について予算要望等改善を継続して行う。 ・各分掌、教科の要望の把握に努め、予算執行の教育効果を高める。	